

平成 30 年 5 月 14 日

九州地方整備局

「みなとオアシス油津」が新たに登録されます

～ 宮崎県南地域の活力と発展のみなもと“みなとまち、油津”を目指して～

平成 30 年 5 月 20 日に「みなとオアシス油津」（宮崎県日南市）が 109 箇所目のみなとオアシスに登録されます。発展を続ける「油津港」において、地域住民の交流促進や地域の魅力の向上につながる取り組みを行います。

国土交通省港湾局では、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取組みが継続的に行われる施設を「みなとオアシス」として登録してきており、平成 15 年からこれまでに全国で 108 の施設が登録され、地域の活性化に寄与しています。

この度「みなとオアシス油津」（宮崎県日南市）を国土交通省港湾局長が登録し、109 箇所目となるみなとオアシスとして活動を開始することとなりました。なお、みなとオアシスの登録は、宮崎県では 2 箇所目となります。

「みなとオアシス油津」の代表施設である「日南市観光案内所」は、情報発信機能、交流機能等の多様な役割を持ち、観光案内・グッズ販売・レンタサイクル貸出等を行っており、日南市の観光において中核をなす施設となっています。

また、構成施設である「油津港漁港地区 1 号岸壁」では、マグロ、カツオ、イセエビなどの海産物や様々な日南の地場産品が新鮮かつ格安で販売される「港あぶらつ朝市」や古くから市民に愛される「油津港まつり」が開催され、市内外の多くの来場者でにぎわいます。これらの施設と、その他構成施設である「堀川資料館」「堀川公園」等が一体的な活動を行うことにより、効果的な地域振興に寄与することが期待されます。

※ みなとオアシス： 旅客船ターミナル、文化交流施設、みなとの資料館、情報提供施設、地元産品の物販施設や飲食施設などで構成されています。「みなとオアシス油津」の詳細については、別紙－1、別紙－2、別紙－3をご参照願います。



みなとオアシス標章（シンボルマーク）

<問い合わせ先>

国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部

クルーズ振興・港湾物流企画室

室長 河野 正文（かわの まさふみ）

課長補佐 西坂 博文（にしざか ひろふみ）

Tel: 092-418-3340（代表）

Tel: 092-418-3379（直通）

Fax: 092-418-3037



国土地理院地図（電子国土Web）(<http://maps.gsi.go.jp>)をもとに国土交通省作成

【基本情報】

設置者	宮崎県日南市
運営者	日南市観光協会
所在港湾	油津港（重要港湾）
港湾管理者	宮崎県

【代表施設】



日南市観光案内所

【主なイベント】



油津キャナルマルシェ



港あぶらつ朝市



【代表施設】
日南市観光案内所

堀川公園

堀川資料館

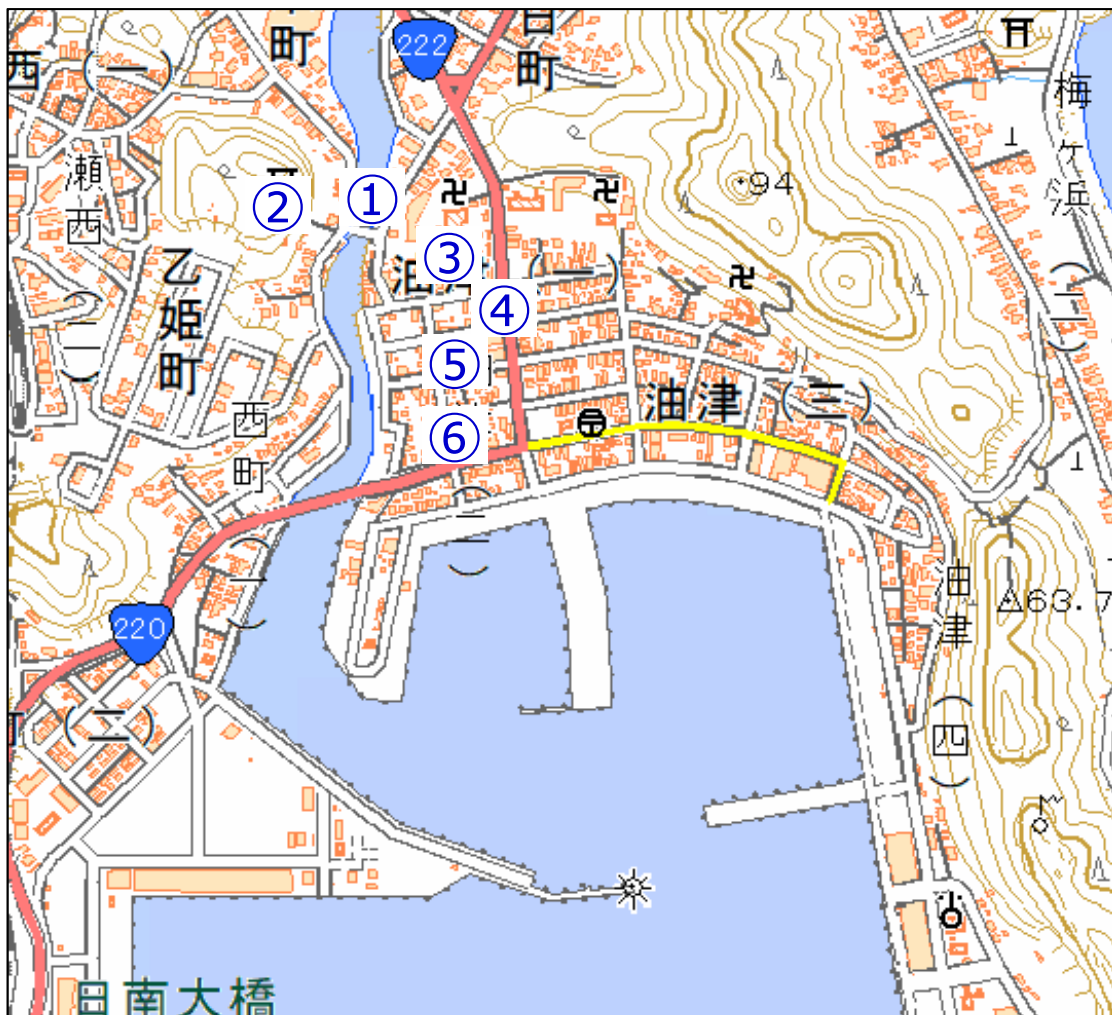
油津赤レンガ館

油津港漁港地区 1号岸壁

油津港東地区
9、10号岸壁

: みなとオアシスエリア

明治期以降の町割りを今に残し、赤レンガ館、杉村金物本店、堀川橋などの国の登録文化財をはじめとして、数多くの歴史的建造物や史跡が残っている。油津地区のまちを散策すれば、近代当時の雰囲気を感じることができる。



①堀川橋（文化庁登録有形文化財）

明治36年（1903）に堀川運河に架けられた石造アーチ橋。工事は約4年の歳月を要した。長さ21m、幅4.85mで現在も現役の橋として車が行き来している。平成4年には「男はつらいよ 寅次郎の青春」（第45作）のロケ地となった。



②吾平津神社

油津地区を代表する神社で、神武天皇の妃吾平津媛を祭神とする。和銅2年（709）創建と伝え、別名乙姫大明神。油津の地名は吾平津が訛ったと考えられている。



③鈴木旅館（文化庁登録有形文化財）

油津地区が餌肥杉とマグロ景気で沸いた大正から昭和にかけて、多くの宿泊者で賑わった老舗旅館である。創業は明治27年（1894）ごろとみられ、昭和初期に増築された。野口雨情や中山晋平、土屋文明なども宿泊している。



④杉村金物本店（文化庁登録有形文化財）

明治25年（1892）創業の老舗で、油津地区の発展とともに大きくなった。現在の主屋建物は昭和7年（1932）に建築されたもので、木造3階建てで、1階が店舗、2・3階が居住となっている。縦長の窓や外壁の銅版張りは洋風の意匠を取り込んでいる。



⑤油津赤レンガ館（文化庁登録有形文化財）

大正10年（1921）、餌肥杉の取扱いで財を成した油津の豪商河野宗四郎の四男宗人が建築した。建物は煉瓦造2階建てで、内部は中央にアーチ天井の通路があり、左右2室となっている。平成21年（2009）に改修工事を行い、現在の姿になった。



⑥マグロ通り

油津地区がマグロ景気に沸いた昭和初期に、海岸の物揚場から繁華街（三間通）へ向かう漁師が行き来して賑わった。

日南大橋

「堀川運河」は飢肥藩5代藩主伊東祐実が家臣の意見を取り入れて、広渡川河口近くから、乙姫神社（吾平津神社）の前の岩山を掘り通し、油津港までの堀川を開削することを決定した。このことにより、杉や松、楠などの木材をはじめ、藩の各種専売品を飢肥から油津港に運送することが飛躍的に便利になると判断されたからである。岩石の開削工事は難航し、天和3年（1683）から2年4カ月の歳月を要して完成したが、堀川運河が完成したおかげで、木材の搬出が便利になったほか、台風や暴風雨のときに船の避難場所ができたことで、油津港の機能が大きく改善された。そのことは、江戸時代以降、飢肥杉の搬出が飛躍的に伸びてから昭和50年代に至るまで、堀川運河周辺が貯木場として、また、現在もなお、漁船や小型船舶の避難場所として大いに活用されて、油津地区の繁栄を支えてきた。



堀川運河



堀川運河古写真



堀川古写真（昭和10年）



堀川運河



堀川運河位置図

弁甲筏



飢肥杉は、樹脂を多く含んでいるために腐りにくく弾力性があり、水に強い特性をもっていることから、昔から造船材としても使われていた。この飢肥杉から作られた造船材を弁甲と呼んでいる。

油津港まつり弁甲競漕大会



日南市の夏の祭典油津港まつりで開催される弁甲競漕大会は、弁甲材の元となる日南特産の飢肥杉の丸太（長さ6m）2本で筏（いかだ）を組んで、5人一組で乗りこみ、およそ150メートルのコースをオールを漕いでタイムを競う。

人柱様



堀川運河が難工事であったため、人柱を立てたという伝説が残っている。土饅頭囲んで地蔵様がたくさんあった。かつては松が植えられていたが、現在は無くなり、記念碑が建てられている。

日南市は、古くから「近海かつお一本釣漁業」「近海まぐろ延縄漁業」「磯建網漁業（イセエビ漁）」が盛んに行われ、特に近海かつお一本釣漁業については、漁獲量日本一を誇っている。また、複数ある漁港の中でも、油津港では、まぐろ延縄漁業をはじめ様々な漁業が営まれており、日々新鮮な魚介類が水揚げされている。その新鮮な魚介類を活用して、さまざまな郷土料理や加工品が誕生し製造されている。みなとオアシス油津のエリアでもこれらの郷土料理を味わうことができる。

日南一本釣りカツオ炙り重



各店舗オリジナルの2種類の漬けカツオを七輪で炙ってご飯にのせて食べるスタイル。



魚うどん



戦時中、主食が不足していた頃、代用食として開発された。トビウオなどの魚のすり身を原料にして麺をつくる。低カロリーで弾力のある歯触りと、魚のダシが凝縮した一品。

かつおうみっこ節



水揚げされたカツオを、加工センターで背骨や皮・小骨なども手作業で丁寧にとり除いて煮た後、水を一滴も使わない、砂糖・醤油・酒・みりん・焼酎でできた煮汁で煮込み、一晚漬け込む。港町の家庭料理として伝統的に作られていた「かつおしょうゆ節」を、添加物を一切使わずに再現した。

かつおめし



船の中でとれたてのかつおの刺身を食した後、残った刺身をご飯の中に入れ、熱いお茶をそそいでかき込んだのがはじまり。現在では、たれに漬け込んだ新鮮なかつおの刺身を熱いご飯の上のせ、薬味を添えてお茶漬け風に食べる。

おびの天ぷら

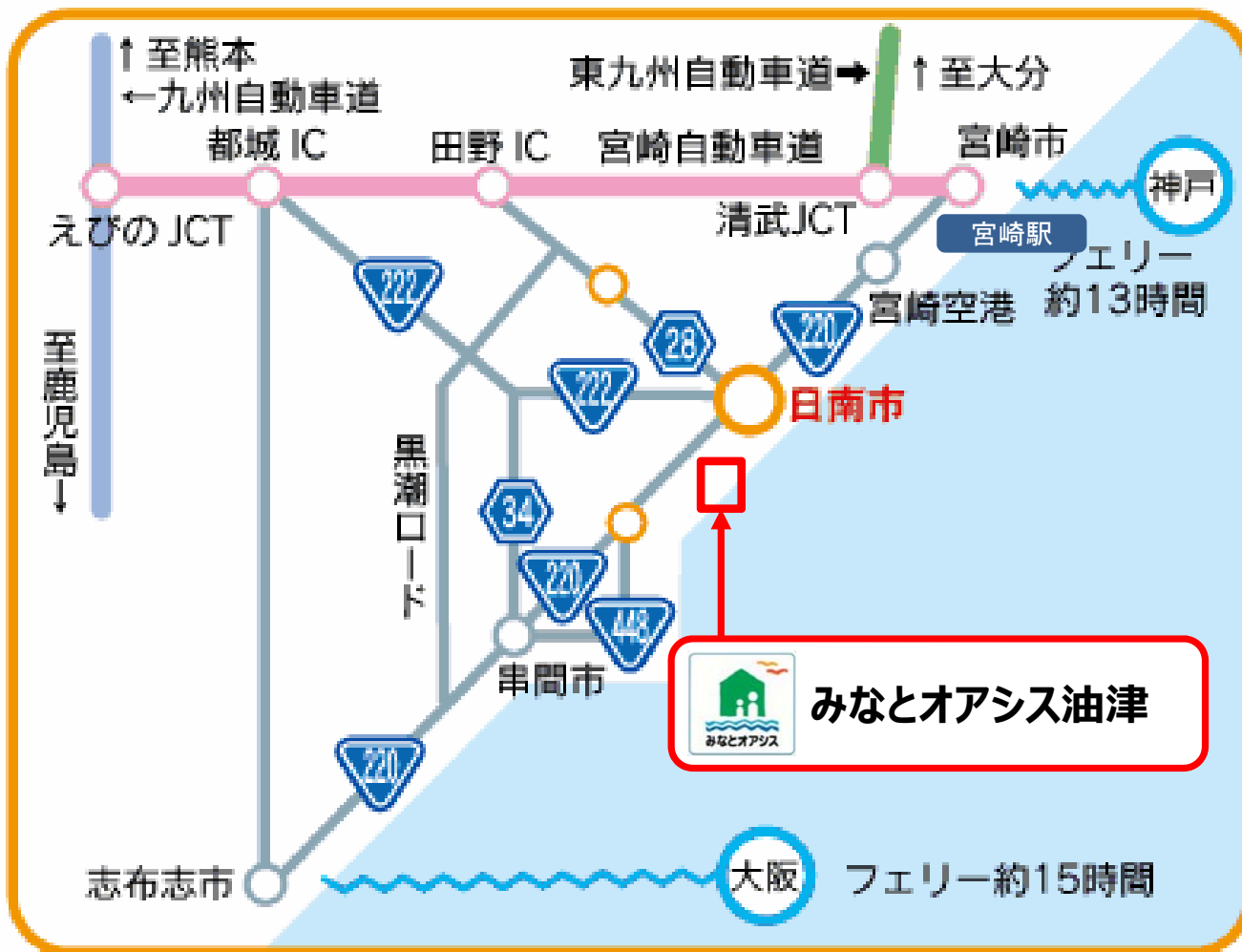


江戸時代から伝わる庶民の味「飢肥の天ぷら」は、近海でとれた新鮮な魚のすり身に、豆腐・黒砂糖・味噌をまぜ合わせて作る、ほんのり甘くてやさしい風味の郷土料理。

ごんぐり



地元では、まぐろの胃袋のことを「ごんぐり」と言い、ねぎやニラ等香味野菜で炒めて食べる。



交通アクセス

【JR】

- ・各地の駅から宮崎駅：宮崎駅から日南線に乗り、「油津駅」下車（約85分/料金1100円）後、徒歩10分
- ・各地の空港から宮崎空港：宮崎空港駅から乗り、「油津駅」下車（約97分/料金1060円）後、徒歩10分

【バス】

- ・各地の駅から宮崎駅：宮崎駅から飫肥行き乗り、「材木町」下車（約105分/1850円）
- ・各地の空港から宮崎空港：宮崎空港から飫肥行き乗り、「材木町」下車（約85分/1690円）

【車】

- ・高速道路利用の場合：田野IC下車→県道28号線→国道222号線（約49分）

観光案内の問合せ先

【日南市観光協会】

電話；0987-31-1134

<https://www.kankou-nichinan.jp/>

【日南市役所 観光・スポーツ課】

電話；0987-27-3315

<http://www.city.nichinan.lg.jp/>